

当日資料

第2回高齢者生活支援体制整備協議会 必要な支援に対するアプローチについて (2)

「吹田らしい住民同士の助け合い活動を広げていくために」 事前ヒアリングまとめ H29.7.13

全体協議①

住民の方に「我が事として」「自分たちの問題として」どんなことが求められるのか。地域の中で、助け合いの活動を広げるためには、どのような取り組みが必要か？

→地域の中で、高齢者をはじめとした地域の方が集う場所を作り、お互いに顔の見える関係を作る。

地域のサロンの拡充、身近な地域でのサロンの開催、地域にある福祉施設やさまざまな社会資源を活用したサロンの充実

→私たちの生活の地続きにある高齢社会がさらに進んでいくことで今後どんなことが起きるのか、住民の方に知ってもらうことが必要。

「市民シンポジウム」などでこれから高齢社会について、情報提供をしていく。

→行政や社協から、「活動を作り出すこと」をお願いするのではなく、住民の声を受けて、そんなことであつたら自分たちでサポートしていこうとボトムアップの形で活動が生まれることを目指す。

→コミュニティでの関係の希薄化が言われるが、互いに「顔の見える関係」をどのように作り出していくのかの仕掛けが必要。

→

全体協議②

「今ある活動」を活かして、これから取り組んでいくことはどんなことができるか？

→「元気な高齢者」の社会参加の機会や仕組みを検討する。

→地域での身近なコミュニティでの助け合いの活動の充実を図る。

→社会資源の見える化を図り、「今ある活動」の活用につなげる。(生活支援サービス、高齢者の社会参加の場、健康体操などの場)

→介護支援サポーターの仕組みを活用し、「元気な高齢者」の活動する機会を増やしていく。

→吹田市の中で、高齢者のちょっとした困りごとを支えていく助け合いの活動の先事例を教えてください。

→地域の高齢者が集まる場で、CSWの相談日を設ける。

→地域の高齢者が集まる場で、各団体の活動の紹介PRをし、情報周知を行う。

→高齢者の生活支援ニーズをシルバー人材センターなどにつなげる。